



第2章

これまでの
取り組みと課題

第2章 これまでの勝山市食育推進計画の取り組みと課題

1 これまでの勝山市食育推進計画の取り組みと成果

勝山市では、平成20年3月に「勝山市食育推進計画」（平成20年度から平成24年度）、平成24年3月に「第2次勝山市食育推進計画」（平成25年度から平成29年度）、平成30年3月に「第3次勝山市食育推進計画」（平成30年度から令和4年度）を策定し、市民、関係機関、行政等が連携を図りながら食育を推進してきました。

勝山市におけるこれまでの主な取り組みと成果

- 市広報や食育パネル展において、勝山市における直売所や農業体験、学校給食や各団体の食育の取り組みを紹介し、市民への周知啓発を図りました。しかし、「食育」という言葉の意味を知っている市民の割合が63%（平成28年度）から61%（令和3年度）に減少しました。
- 食品工場見学や食品表示に関する学習会を開催し、食品表示に関する基礎的知識を身につけてもらうことができました。しかし、食品を購入する際、食品表示を見る市民の割合が74%（平成28年度）から65%（令和3年度）に減少しました。
- 「食品ロス」(※1)の削減を目指し、家庭での食べきりなどをアピールする記事を市広報に掲載しました。また、公共施設にチラシやポスターを掲示して、市民に対して食べきり運動や3R(※2)の実践に向けた意識づけを行いました。その結果、食べ残しや食品の廃棄を減らす努力をしている市民の割合が42%（平成28年度）から46%（令和3年度）に増加しました。
- 食生活改善推進員を養成・育成し、地域において食への関心と理解を深めるための活動や望ましい食習慣を学ぶ教室、適切な食事管理のための情報提供を行いました。その結果、1日1食でも家族そろって食事をする市民の割合が49%（平成28年度）から56%（令和3年度）に増加しました。
- 各ライフステージにおいて健康および生活習慣病予防のための良い食習慣を学ぶ教室や相談会を実施しました。乳幼児期からの肥満予防をはじめ、家族ぐるみで健康づくりがすすめられるよう支援を行いました。その結果、日ごろの食事で気をつけていることがある市民の割合は73%（平成28年度）から67%（令和3年度）に減少し、野菜を多く摂るようにしている人は276人（平成28年度）から178人（令和3年度）に減少しましたが、新たに追加した「野菜から先に食べるようにしている」という項目では108の方が取り組んでいると回答しています。

- 農業男子・農業女子マルシェや勝山水菜フェア等の各種イベントを実施し、勝山産の農林水産物や加工品等を販売し、勝山の食のPRを実施しました。しかし、勝山産の野菜を使用している市民の割合は19%（平成28年度）から16%（令和3年度）に減少しています。
- 勝山産の農林水産物や加工品等を取扱う直売所の普及、拡大を行い、地域でとれる農産物への愛着と生産者の意欲向上を図りました。その結果、市内の直売所を利用している市民の割合は34%（平成28年度）から39%（令和3年度）に増加しました。今後も、道の駅など市内の直売所等と連携し、勝山産の野菜の普及に努めていきたいと考えています。
- 特産品を使用した伝承料理（※3）や行事食（※4）、農業体験の講座・教室を実施し、普及継承に努めました。しかし、新型コロナウイルスの影響で対面での料理教室が制限されたため、伝承料理・行事食の料理教室の参加者数が372人（平成28年度）から65人（令和3年度）に減少し、農業体験事業の参加者数も、1,397人（平成28年度）から114人（令和3年度）に減少しました。
- 保育園や認定こども園、幼稚園・小中学校においては、それぞれの「食に関する指導計画」等に基づき、野菜の栽培や米作りなどの農業体験活動や食材を提供している生産者グループ、学校調理師や食育ボランティア（※5）との交流を通して、命の大切さを学んだり、感謝の気持ちを育むなど、計画的・系統的に食に関する指導を行いました。また、生活習慣調査等の結果を基に、基本的な食習慣について児童、生徒に指導したり、学校だより等で保護者への啓発を行いました。

- ※1 **食品ロス**：家庭や食品関連事業者から排出される食品廃棄物のうち、本来食べられるにもかかわらず捨てられている部分のこと。食べ残しや手つかずのまま捨てられた食品、売れ残りや期限切れの食品のこと。
- ※2 **3R**：3Rとは、ごみになるものを減らすReduce（リデュース）、ごみにせずに繰り返し使うReuse（リユース）、再生利用するRecycle（リサイクル）の頭文字をとったもの。廃棄するものを減らすことによって、限りある資源を有効に活用する取り組みのこと。
- ※3 **伝承料理**：その地域から得られる農林水産物を使用し、その地域独自の調理方法で作られた、古くからその地に伝えられてきた料理のこと。
- ※4 **行事食**：季節ごとの行事やお祝いの日にいただく特別な料理のことで、家族の幸せや健康を願う意味が込められている。それぞれ旬の食材を取り入れたものが多く、季節を味わい楽しむことができる。
- ※5 **食育ボランティア**：料理を作る技術、作物を育てる技術、栄養の知識など、食に関する専門技術や知識を持ち、地域や学校等で食育の推進活動を自主的に行っている人々。

2 食に関する現状と課題

勝山市の食の現状を把握するため、市民に対しては食育アンケート、小中学生と幼稚園・認定こども園・保育園に通う幼児（3～5歳児）に食に関するアンケート調査を実施しました。（以下一部抜粋、全体は資料編を参照）

【食育アンケート】

対 象 : 市内に住む16歳以上の市民 1,400人
抽出方法 : 住民基本台帳より年齢階層別無作為抽出
調査方法 : 郵送による配布回収
調査期間 : 令和3年7月26日～8月9日
回答者数 : 561人
回 答 率 : 40.1%

【食に関するアンケート調査】

対 象 : 市内全小中学校 児童・生徒
調査期間 : 令和3年10月～11月
回答者数 : 小学生 809人 中学生 223人
回 答 率 : 小学生 82.3% 中学生 42.3%

【食に関するアンケート調査】

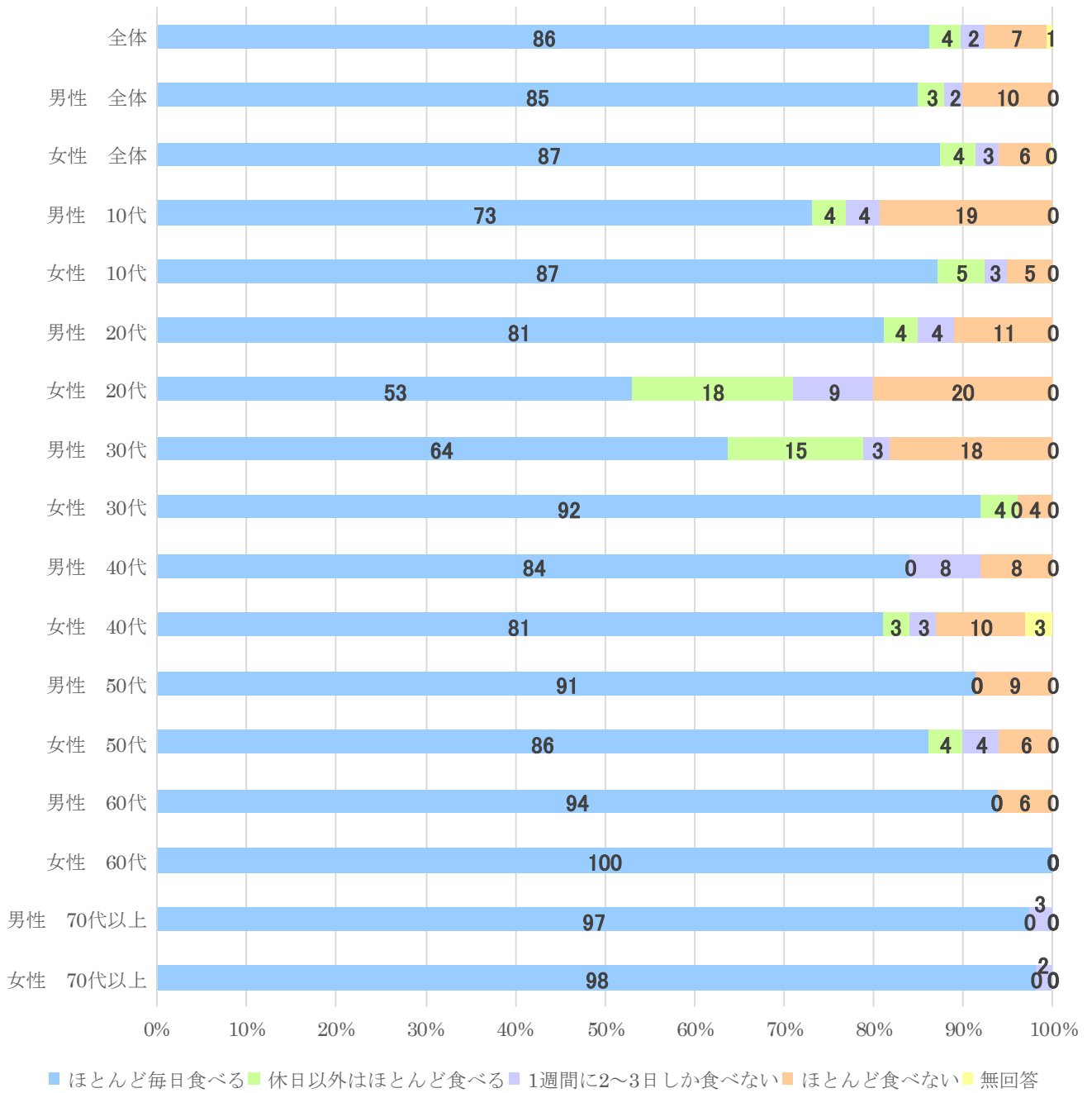
対 象 : 市内全幼稚園・認定こども園・保育園に通う幼児（3～5歳児）
調査期間 : 令和4年6月～7月
回答者数 : 395人
回 答 率 : 92.9%

■朝食摂取の状況（16歳以上の市民）■

朝食を「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、男性が85%、女性が87%と、8割以上の方が、ほとんど毎日朝食をとっていました。しかし、男女別年齢別に見ると、男性は30代で60%台、女性は20代で50%台と特に低くなっています。

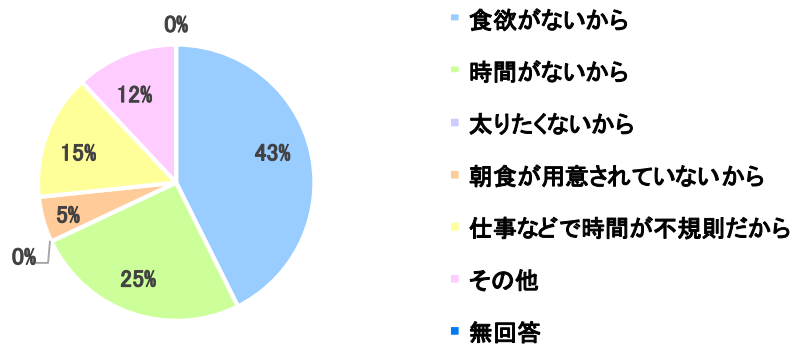
また、朝食をとらない理由は、「食欲がないから」「時間がないから」「仕事などで時間が不規則だから」の順でした。

【朝食摂取状況】



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

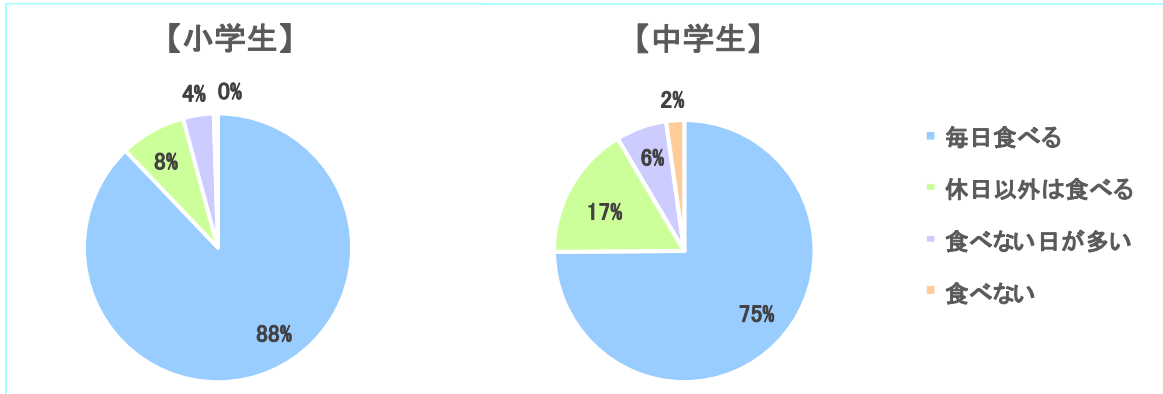
【朝食を食べない理由】



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■朝食摂取の状況（小中学生）■

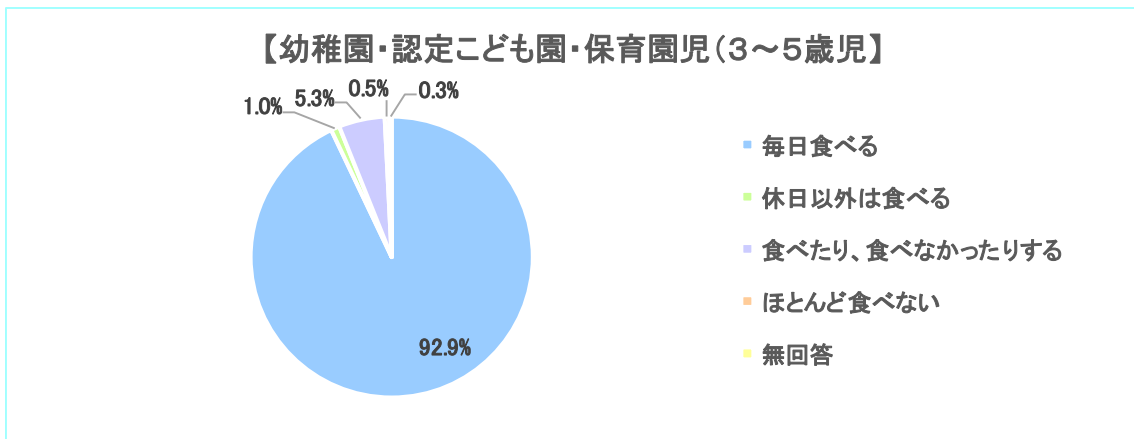
朝食を「毎日食べる」と回答した人は、小学生で88%、中学生で75%でした。平成28年度調査の数値（小学校：87%、中学生：82%）と比較して、毎日朝食を食べる小学生は1%増加しましたが、中学生は7%減少しました。



資料：小中学生 食に関するアンケート調査（令和3年11月）

■朝食摂取の状況（幼稚園・認定こども園・保育園に通う幼児3～5歳児）■

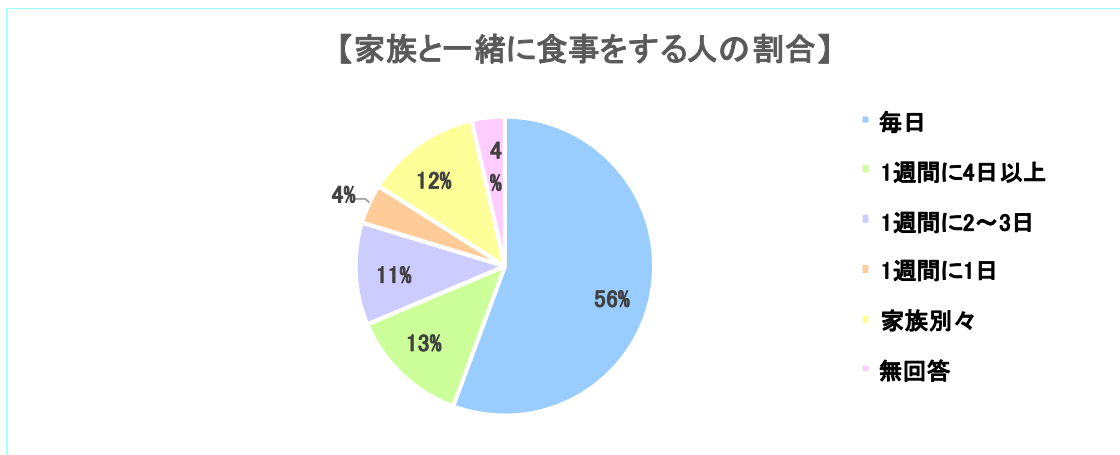
朝食を「毎日食べる」と回答した人は、92.9%で、平成28年度調査の数値92.6%と比較して、毎日朝食を食べる幼児が若干増加しました。



資料：幼稚園・認定こども園・保育園 食に関するアンケート調査（令和4年7月）

■家族と一緒に食事をする人の割合■

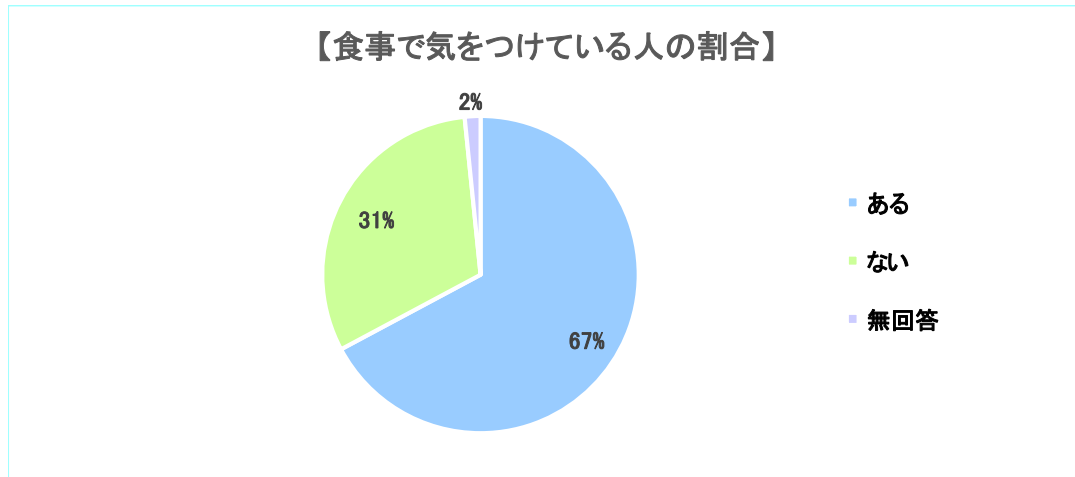
毎日家族と一緒に食事をする人の割合は56%で、平成28年度の数値49%から7%増加しました。



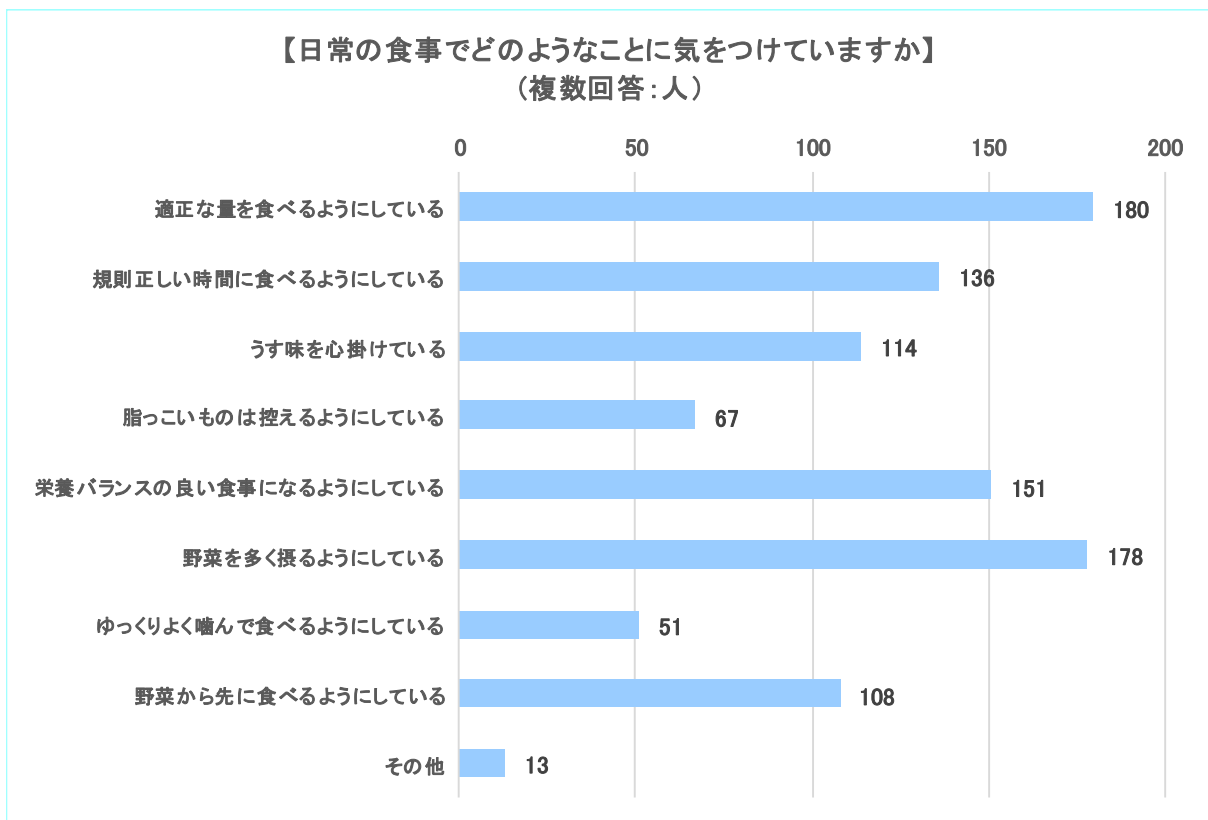
資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■日頃の食事で気をつけていることがある人の割合■

日頃の食事で気をつけていることが「ある」と回答した人の割合は67%で、平成28年度と比べると6%減少しています。その内容として「適正な量を食べるようにしている」「野菜を多く摂るようにしている」「栄養バランスの良い食事になるようにしている」の順となっています。



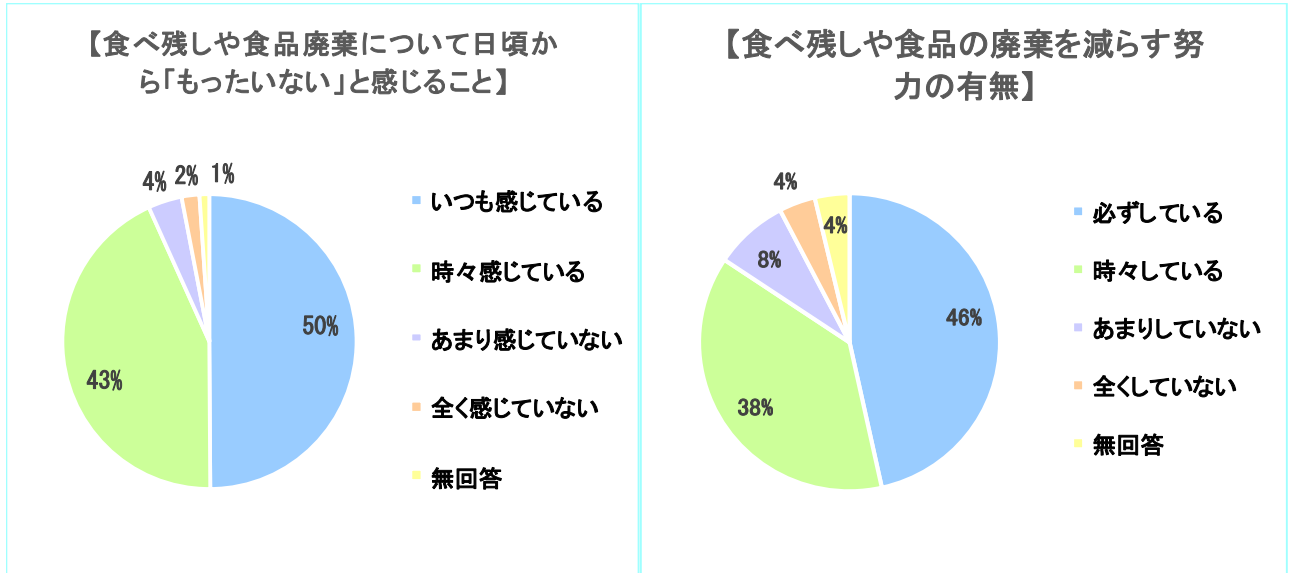
資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■食べ残しや食品の廃棄に関してもったいないと感じている人の割合■

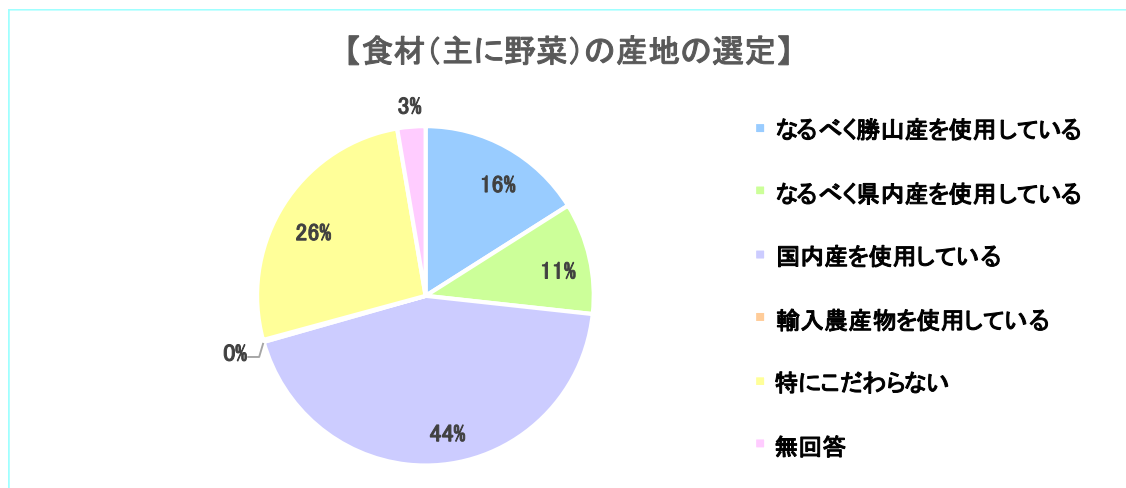
食べ残しや食品の廃棄に関して、もったいないと「いつも感じている」「時々感じている」と回答した人は、合わせて93%になり、平成28年度の数値に比べると増減なしでした。食べ残しや食品の廃棄を減らす努力を「必ずしている」「時々している」と回答した人は、合わせて84%になり、平成28年度の数値82%から2%増加しました。



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■食材（主に野菜）について、勝山産を使用している人の割合■

主に野菜について、「なるべく勝山産を使用している」は16%で平成28年度の数値19%から3%減少しました。直売所の数は増えていますが、勝山産の食材使用が進んでいないことが伺えます。



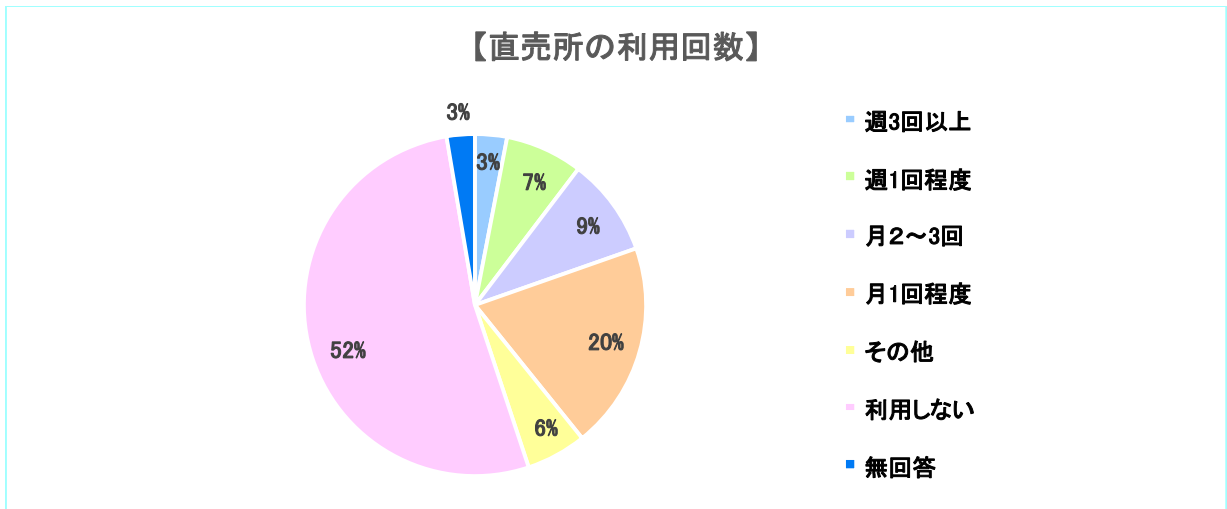
資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■市内の直売所を利用している人の割合■

市内の直売所を利用している人の割合は39%で、平成28年度数値34%から5%増加しました。

市内の直売所は令和3年7月食育アンケート実施時点で8店舗あります。

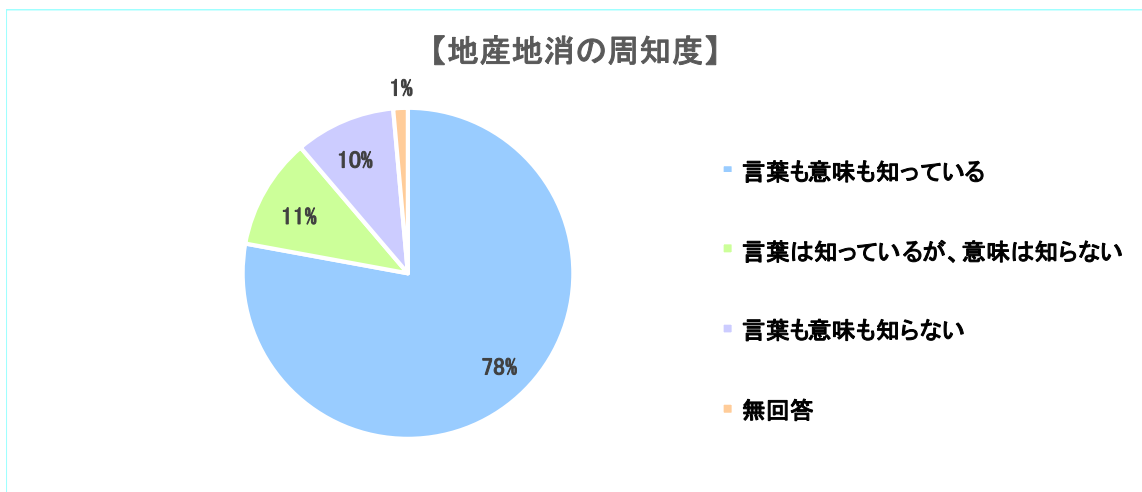
1. 大渡ふれあい市場
2. 平泉寺大門市
3. 鹿谷町鮎の駅
4. かつちやま太陽市の会（勝山サンプラザ内）
5. のむき風の郷
6. 北谷町コミュニティセンター
7. あらど朝市
8. 道の駅「恐竜溪谷かつやま」



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■地産地消という言葉や意味を知っている人の割合■

地産地消（※1）について「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、78%となり、平成28年度の数値81%から3%減少しました。

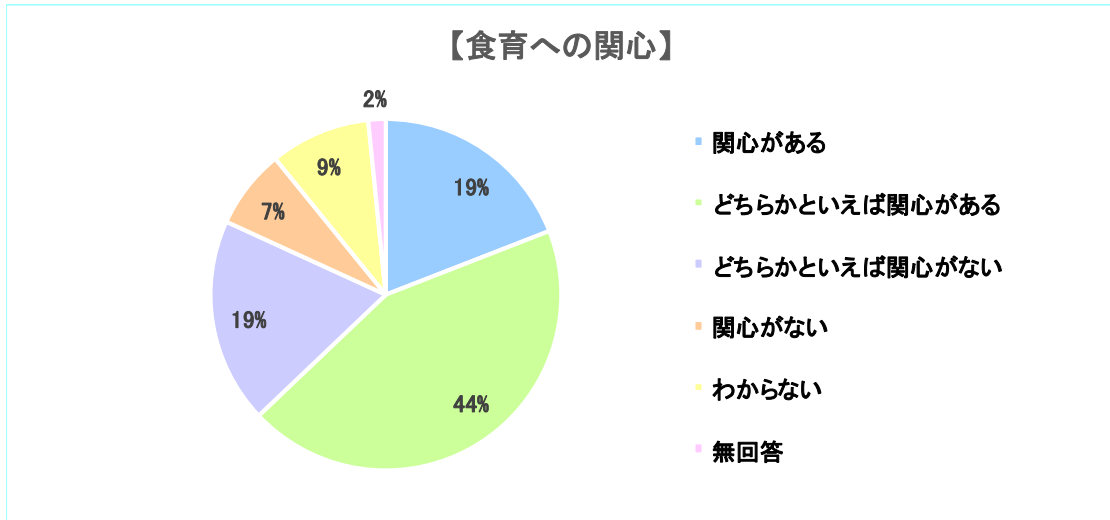


資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

※1 地産地消：地域でとれる農林水産物を地域で消費すること。

■食育に関心がある人の割合■

食育への関心について「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、合わせて63%で、平成28年度の数値71%から8%減少しました。

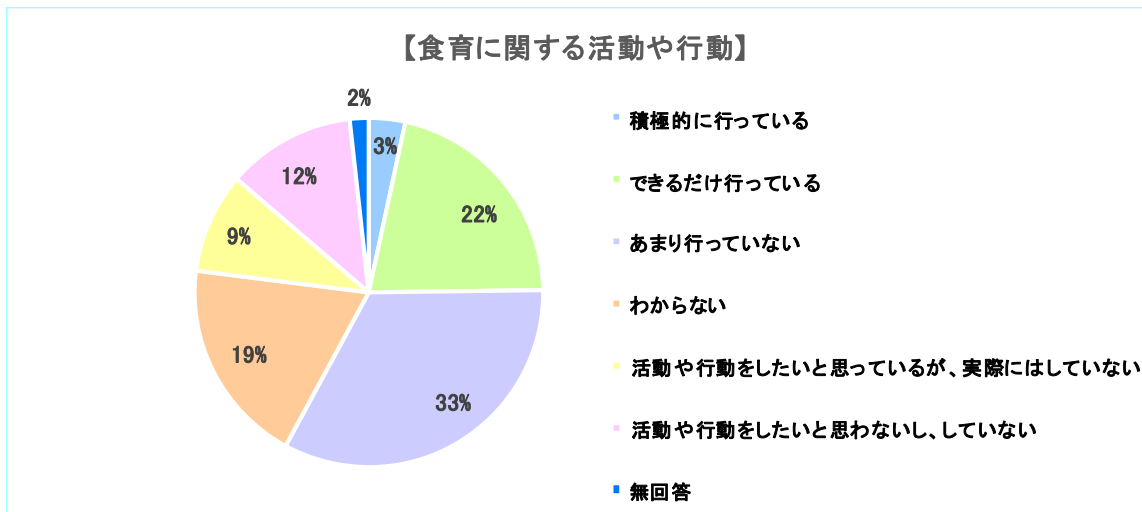


資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■食育に関する取り組みを行っている人の割合■

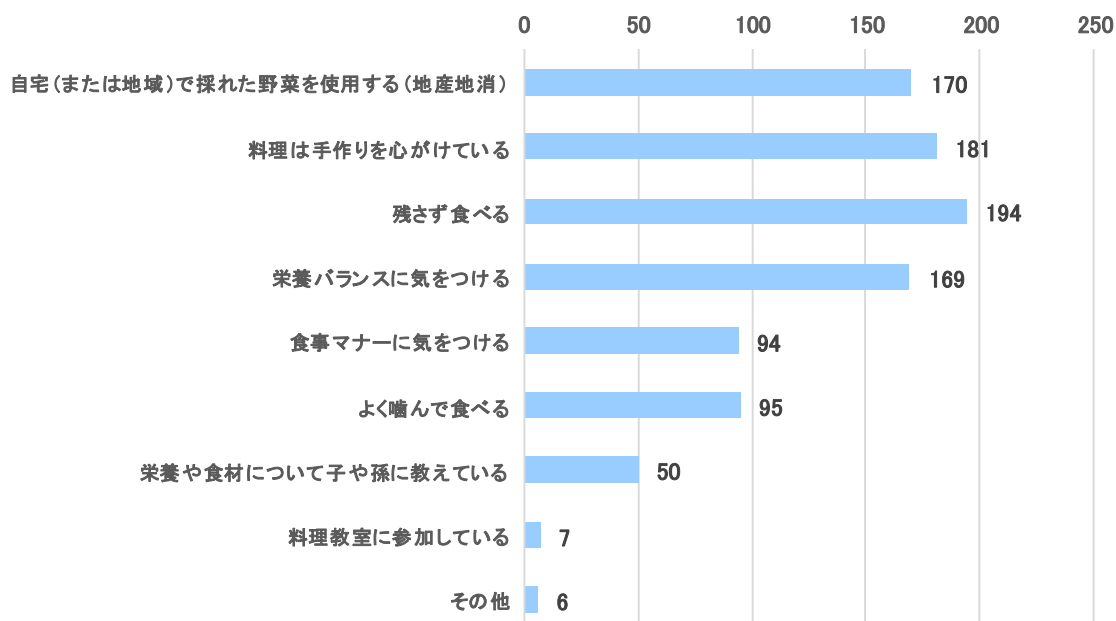
食育に関する取り組みを「積極的に行っている」「できるだけ行っている」と回答した人は、合わせて25%で、平成28年度の数値に比べると増減なしでした。

取り組み内容については、「残さず食べる」と回答した人が最も多く、次いで「料理は手作りを心がけている」「自宅（または地域）で採れた野菜を使用する（地産地消）」「栄養バランスに気をつける」の順になっています。



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

【食育取組内容】

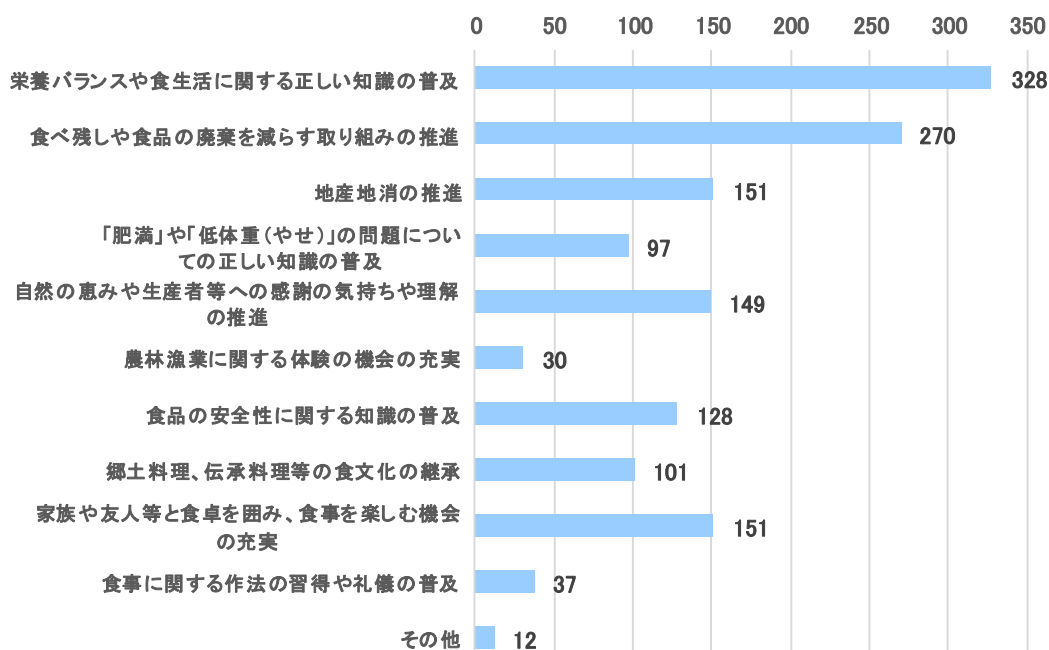


資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

■食育に関する取り組みで重要なことや必要なこと、大切なこと■

食育に関する取り組みで必要なこと、大切なことの回答としては、「栄養バランスや食生活に関する正しい知識の普及」「食べ残しや食品の廃棄を減らす取り組みの推進」「地産地消の推進」「家族や友人等と食卓を囲み、食事を楽しむ機会の充実」「自然の恵みや生産者等への感謝の気持ちや理解の推進」という順になっており、日常の食事、食への感謝、地産地消に関することへの市民の関心の高さがうかがえます。

【食育に関する取り組みの中で重要なことや必要なこと、大切なこと】



資料：勝山市 食育アンケート調査（令和3年7月）

アンケートの結果とまとめ

○朝食を「毎日食べる」について

- ・10代、30代男性と20代女性で50～70%にとどまり、平成28年度数値と比較しても減少しました。

若い世代における朝食の欠食率が高く、若い世代に対する健全な食生活の実践のための効果的な情報提供、そして家族や友人との食事の推進を今後も進めていく必要があります。

○「日頃の食事で気をつけていることがある人」は67%で、平成28年度数値から6%減少しました。

○「地産地消」について

- ・認知度は78%で、平成28年度数値から3%減少しました。
- ・主に野菜について、勝山産を使用している人は16%で、平成28年度数値に比べ3%減少しました。

地産地消の認知度が減少し、勝山産（主に野菜）を使用している人の割合も減少しているため、道の駅など市内の直売所等と連携し、勝山産の野菜の普及に努める必要があります。

○「食べ残しや食品の廃棄」について

- ・もったいないと感じている人は93%で平成28年度数値に比べ増減なしでした。食べ残しや食品の廃棄を減らす努力している人は84%で、2%増加しました。

もったいないと感じる人の割合は変わらないが、食べ残しや食品廃棄を減らす努力をしている人の割合は増えました。

○「食育」について

- ・関心を持っている人は63%と平成28年度と比べ8%減少し、食育に関する取り組みを「積極的に行っている」「できるだけ行っている」人が合わせて25%で平成28年度と比べ増減なしでした。

食育の取り組みについて、10代男性が10%未満、10代～20代女性が、10%台にとどまっており、若い世代への食育の取り組みへの意識付けや働きかけを進めていく必要があります。

以上のことから、日常生活において、食事で気をつけていることがある人や、食育に関心を持っている人が減少していることが分かります。特に若い世代の朝食摂取率の減少や、食育への関心、取り組みの低さがわかります。

このことから、次のような課題が見えてきました。

1. 若い世代の朝食摂取率や食育に関する取り組みを行っている人の割合が低いことなどから、

若い世代の食育への関心・取り組みが低い

2. 地産地消の認知度が下がり、勝山産（主に野菜）を使用している人が16%に減少していることなどから、

地産地消のさらなる推進

3. 食べ残しや食品の廃棄を減らす努力している人は84%に増加したが、令和4年度の目標値90%に達していないことから、

食への感謝や理解をさらに深める

3 今後の取り組みに必要なこと

市民一人ひとりが「食」について再度認識し直し、これまでの取り組みを継続しつつそれぞれの課題の解決に対してライフステージに応じた取り組みを行うことが必要です。

若い世代の食育への関心・取り組みが低い

必要な
取り組み

1. 規則正しく食事をする
2. 家族で食事をする
3. 栄養バランスのとれた食生活を実践すること

地産地消のさらなる推進

必要な
取り組み

1. 地場産物の利用拡大
2. 旬産旬消の実践
3. 和食、伝承料理・行事食を継承すること

食への感謝や理解をさらに深める

必要な
取り組み

1. 「食」に対する感謝の気持ちをもつこと
2. 食事のマナーを身につけること
3. 農業体験を通じて感謝の気持ちをもつこと